様式第３号

令和６年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	42	学 校 名	静岡県立静岡中央高等学校 通信制の課程	校 長 名	小野田　秀生

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**生徒の変化に対応した指導の在り方の検討**	・単位修得率 50% ・新入生の１科目以上単位修得率 60% ・年度当初卒業予定者の卒業率 60% ・生徒アンケート「レポートの内容がよく理解できた」75% ・生徒アンケート「レポート添削指導は丁寧に行われている」90%以上 ・生徒アンケート「スクーリングは学習を進める上で役に立つ」90%以上 ・３キャンパス合同教科会議を年に３回程度実施 ・教育課程検討委員会を３回以上開催 ・新しいＲＳＴの運用について検討を始める	・単位修得率 45.4% ・新入生の１科目以上単位修得率 59.6% ・年度当初卒業予定者の卒業率 61.5% ・生徒アンケート「レポートの内容がよく理解できた」80% ・生徒アンケート「レポート添削指導は丁寧に行われている」93%以上 ・生徒アンケート「スクーリングは学習を進める上で役に立つ」91%以上 ・３キャンパス合同教科会議を年に３回実施 ・教育課程検討委員会は１回開催 ・CST 委員会は４回実施	B	○対面で教科会議を実施することで効果的な情報交換ができ、授業改善につながった。 ○年間を通し教員の丁寧な対応が実践され、校内での適切な学習環境は提供できている。 ○３キャンパス間で情報共有し生徒の実態に合わせた支援ができている。 ○●CST 委員会からテストの在り方については問題提起できたが、学びの質の保証や主体的・対話的で深い学びの実現のために、RST の運用や開設科目の検討、観点別評価の改善について引き続き対応していく。
	生徒の学習環境の向上	・新入生へ積極的な声かけにより、ホームルームへの参加数を増やす ・ユニバーサルデザインの視点に基づく報告課題・補助プリント・掲示物等の改善を継続する ・ICT を活用した学習支援を工夫する ・学習支援日を計画的に設け効率よく実施する ・スクーリング通信を月 1 回発行と ICT を活用した配信を試行	・新入生面談を利用し積極的な参加、出校を促した。 ・スクーリング通信を月１回発行 ・スクーリングにおいて chromebook を利用し動画を使用したり確認テストを行うなどの工夫をした。	B	○学習支援日を設定し、積極的に呼びかけ、活用を増やす努力ができた。 ○Classroom を利用することで生徒とのやり取りがスムーズにできた。 ○補助教材や補助動画を活用することで学力の向上を図ることができた。 ●自学自習が進まない生徒も多いため、個々の困り感や学力をもっと具体的に検証し解決策を探る。 ●デジタル環境格差への支援体制や BYOD の環境整備について検討する。

様式第３号

	生徒の学力向上に向けた指導方法の改善	・教員アンケート「生徒の実態に基づき、面接指導(スクーリング)の改善に取り組んだ」100% ・教員アンケート「生徒の実態に基づき、報告課題(レポート)の改善に取り組んだ」80%	・教員アンケート「生徒の実態に基づき、面接指導(スクーリング)の改善に取り組んだ」92% ・教員アンケート「生徒の実態に基づき、報告課題(レポート)の改善に取り組んだ」96%	A	○スクーリングでは生徒の実態に合わせ、困り感を把握しながら安全に配慮した展開を心掛けた。 ○動画視聴や Google スライド、「ふきだしくん」などの ICT ツールを活用した。 ○穴埋めだけでなく自分の考えや意見を述べるような設問を取り入れた。
イ	**すべての生徒に充実した支援を実施**	・必要な生徒の個別の指導計画を作成する ・中学校訪問(春)を実施し、新入学生徒の情報を収集する ・生徒情報の入力、職員会議時の情報共有を充実させる ・「生徒保健カルテ」の活用を図る ・ケース会議(生徒支援委員会)を適切に開催する ・SC や SSW 等、外部人材の有効活用を図る ・外部機関との連携を図る	・自立活動を中心に、必要な生徒の個別の指導計画を作成した。 ・情報提供があった中学校を中心に訪問し指導に有用な情報収集をした。 ・生徒情報をデータ管理することでキャンパス間でも共有することができた。 ・中央 C で日曜 SC・SSW を配置した。 ・支援センターなど外部機関を訪問し直接情報交換することで連携体制を強化した。	A	○生徒の困り感に寄り添う支援を行い、教員間で情報共有することができた。 ○生徒支援の研修を実施した。 ○●健康診断について、全ての生徒が自己負担なく実施できるよう改善策を練り、実施に向けて企画立案できた。クリアしなければならない課題も多いため、引き続き検討していく。 ○図書室でガイダンスを行ったり陳列の工夫をしたことで書籍に関心を持つ生徒が増えた。 ●登校できない生徒への支援が難しい。 ●非常勤講師との情報共有が難しい。 ●図書室や蔵書の紹介を充実させ利用を勧めていく。
	社会の中で自己実現するための支援の充実	・生徒個々の目標達成や単位修得のために指導・支援の方法を研究する ・個別の教育支援計画を作成する ・自立担当以外の教員とも連携し、情報共有を充実させる ・生徒アンケート「行事に積極的に参加した」40%以上 ・就職支援員やジョブサポートティーチャーの活用 ・外部機関の活用(就労支援) ・LINE アカウントによる保護者への情報提供を月一回以上	・生徒アンケート「行事に積極的に参加した」43% ・遠足や球技大会など行事に満足した生徒約 90% ・東海道シグマやハローワークなどと連携した就労支援を行った。 ・LINE アカウントによる保護者への情報提供を月 1 回以上行った。	B	○生徒会役員が学校行事の企画や実施について主体的に参画した。 ○行事が生徒同士や生徒と教員間の交流の場となった。 ○他校生徒とのオンライン探究活動や東海四県交歓会などにおいて外部との交流も積極的に行った。 ○Classroom を活用し情報共有を行えた。 ●行事の見直しを行う。 ●特別活動において生徒会主催で行う機会をより多く設けたい。 ●自己実現するための支援(進路指導)をどのように充実させるのか検討する。 ●外部機関との連携強化。

様式第３号

ウ	**ＩＣＴを活用した学習指導や放送教育の活用促進**	・生徒アンケート「Classroom を活用した」50% ・教員アンケート「学習支援(スクーリングやレポート)にClassroomを活用した」60%	・生徒アンケート「Classroom を活用した」43% ・教員アンケート「学習支援(スクーリングやレポート)にClassroomを活用した」69%	B	○Classroomを全科目、全クラス作成し多角的に生徒を指導することができた。 ○YouTubeの利用規約を整え、学習指導に活用した。 ○ICT活用伝達研修や「ふきだしくん」「ロイロノート」等、ICT研修を充実させた。 ○サイネージを活用して連絡事項を周知できた。 ●端末の貸し出しなど、生徒のICT環境を整備する。 ●教員の ICT に対する理解と技術向上を図る。 ●活用しにくい教科や、教員・生徒個々の意識やスキルの差もあり、学校全体で取り組むことが難しい。
	成績処理システムの円滑な運用	・随時マニュアルの改訂を行う	・随時マニュアルの改訂を行った。	B	○大きなミスなく円滑な運用ができた。 ●年度当初は混乱が起きやすいため、より慎重に行う。
	ＩＣＴを活用した校務効率化	・生徒登録率 85%（入学生） ・教員アンケート「学習支援以外(生徒連絡・進路指導・調査等)にGoogle Classroomを活用した」50% ・DX 推進委員会の分掌移行に向けた準備を行う	・生徒登録率 85%（入学生） ・教員アンケート「学習支援以外(生徒連絡・進路指導・調査等)にGoogle Classroomを活用した」85% ・次年度の分掌改編について検討を重ねた。	B	○情報資産について適切な管理に努めた。 ○会議や研修などで chromebook を活用した。 ○テンプレートを充実させるなど工夫することで教員へのClassroomの活用促進を図った。 ○生徒連絡やアンケートなどに活用した。 ●生徒の登録率をいかに上げるかが課題。
エ	広報活動の促進	・中央高通信を年間４回発行 ・ホームページの改訂 ・パンフレットとチラシの更新 ・入学説明会は各キャンパスで年間・３回延べ９回実施する ・中学校訪問は各キャンパス 20 回延べ 60 回以上実施する ・外部への参加は３キャンパス合計年間20回以上実施する	・中央高通信を年間４回発行 ・ホームページをスムーズに移行できた。 ・入学説明会は予定どおり各キャンパスで年間３回延べ９回実施した ・中学校訪問は３キャンパス合わせ延べ72回、新卒生のいる学校を中心に実施した。 ・外部への参加は３キャンパス合わせ合計15実施した。	A	○各キャンパスで分担し、生徒の活動する様子を捉えた中央高通信を発行できた。特に行事の記事を多く掲載し、特別活動への参加意欲を高めた。 ○中央高通信を Classroom にも掲載しデジタルに対応した。 ○個人情報の取り扱いに留意した。 ○積極的に外部の説明会に参加し、本校の学習システムについて周知に努めた。

様式第３号

オ	**教職員の資質の向上**	・全教職員が計画的に研修を実施する ・全教職員による校内研修を３回以上実施する ・教員が受けた研修を他の教員に伝達する機会を５回以上設定する ・人権教育全体計画に基づき、年間指導計画を作成する	・全職員による校内研修及び各キャンパスの研修を計６回実施 ・県外視察や大会参加の報告を職員会議の中で随時行った。	B	○学習評価、生徒支援、ICT 活用等、幅広いテーマで研修会を開催できた。 ○Classroom を使い資料の配布や研修の配信、Meet を使ったオンライン研修等を行えた。 ○研修で学んだことを業務に活かすことができた。 ●「行きたい学校づくり推進事業」に関連した研修を行ったが、目的が十分に果たせなかった。
	コンプライアンス遵守	・交通事故ゼロの達成 ・発送時の複数チェックにより誤送事故ゼロを達成	・交通事故ゼロを達成した。 ・発送時の複数チェックにより誤送事故ゼロを達成した。	A	○発送業務では複数チェックを徹底し誤送を起こさないよう細心の注意を払った。 ○問題が起こらない、起こさない雰囲気づくりに努めた。
	業務の精選と効率化	・各分掌で業務の整理分担を行う ・教員アンケート「ICT(Classroomやクロームブック等)を活用したことで業務改善が進んだ」50% ・ICT 活用が「できる」「ややできる」と答える教員 90%以上	・教員アンケート「ICT(Classroomやクロームブック等)を活用したことで業務改善が進んだ」60% ・ICT 活用が「できる」「ややできる」と答える教員 81%	B	○classroom を使うことで生徒への連絡や指導の効率が上がった。 ○アンケート集計や印刷の手間がかなり省けた。 ●デジタル環境が整っていない生徒もいるため、デジタルと紙を両方用意しなければならない。 ●Classroom の生徒登録が番号のため分かりにくい。 ●担当者の業務負担が大きい。
	生徒の安心安全確保のための防災意識の向上と対策の充実	・他校、他課程や、地域との連携を図る ・教科指導を通し防災意識の向上を図る	・各キャンパスで校舎を共有する高校や課程と連携を図った。 ・特別活動の時間を利用し防災について具体的に考えることができた。	A	○出向記録の管理を徹底し、生徒の在校の把握ができた。 ○南海トラフ地震臨時情報発表時には、危機管理マニュアルに従い適切に対応できた。 ●定時制・通信制合同の避難訓練を実施したい。 ●特別活動以外の時間にも防災意識を高める機会を作っていく。 ●地域防災訓練への参加を促す。